



みどりのこだま

編集・発行 ■福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所
住所 〒969-6506 河沼郡会津坂下町大字見明字南原881 Tel (0242) 83-2113
■福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所金山普及所
住所 〒968-0011 大沼郡金山町大字川口字上町656-1 Tel (0241) 54-2801

会津坂下町「百姓HOUSE」が県農業賞を受賞!!



農産加工グループ「百姓HOUSE」が平成24年9月に、第53回福島県農業賞（集団活動部門農業女性活動の部）を受賞しました。

「百姓HOUSE」は平成16年に設立し、会津坂下町坂本地区の国道49号線沿いにある店舗を中心に女性5名で活動しています。地産地消をモットーに、自分たちが生産した農産物や地域の農家から直接仕入れた新鮮な野菜・穀類等を使い、ふるさと感じさせる農産加工品の製造・販売や、会津地方の郷土料理を

佐藤知事より古口代表に表彰状が手渡されました

取り入れた仕出しなどを行い、会津地方の食文化を継承することに力を入れています。平成19年には、地産地消優良活動表彰（農林水産省主催）で東北農政局長賞も受賞されています。

「百姓HOUSE」では会津の伝統野菜である「アザミバゴボウ（通称：立川ごぼう）」に着目し、町内の農業者や食品加工業者等と連携を図りながら「ごんぼクッキー」、「ごんぼと地鶏まぜらんしょ」、「ごんぼのグラッセ」、「立川ごんぼ漬け」などの加工品を開発しています。これら幾多もの加工品は、福島県農産物加工コンクールやふくしま特産品コンクールで県知事賞などを受賞し非常に高い評価を受けています。

地産地消と農業の6次産業化の取り組みは、地域に埋もれていた伝統野菜に光を当てたことで、地域資源を生かした村づくりの気運をも高めました。立川集落では、毎年11月の第2土・日曜に「立川ごんぼフェスティバル」を開催しており、地場産品の再評価と地域の活性につながっています。

代表の古口さんは、「常に新商品開発に取り組みたい。その一つとして、24年度は町商工会青年部と連携し、町特産の馬肉を使ったおかず「馬くて肉らしい（うまくてにらしい）」を商品化しました。今後も原発事故による風評被害に負けないよう、県内外フェアへ積極的に参加していきたい。人と人のつながりを大切に、今後も農村女性パワーを地域に発信していきたい。」と抱負を語っています。



自分たちで開発した商品を手
「百姓HOUSE」の皆さんです

福島第1原子力発電所事故への対応について

1 平成24年度の農産物のモニタリング検査結果から

平成23年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて、県では緊急時環境放射線モニタリング検査（以下「モニタリング」という。）を実施して2年が立ちます。モニタリングは、放射性物質の農林水産物への影響の把握及び安全性確認と、消費者に正確な情報を提供するために実施しています。

平成24年産の管内農産物のモニタリングでは、平成24年4月からの新たな基準値（一般食品の放射性セシウム100Bq/kg）に対応し、前年度のモニタリング検査数553点を大きく上回る3,262点を検査しました。米では全量全袋検査として、出荷米だけでなく自家保有米も含め管内で約100万袋の検査を実施しています。結果は全て基準値以下であり、検出された場合でも微量な検出量にとどまっています。また、肉用牛等に与える牧草等の飼料作物も検査しています。管内の農畜産物の安全性は、生産者の努力により十分に確保されていると考えています。

県は、H25年度のモニタリングについても継続して実施していく予定です。

表 管内の平成24年度モニタリング検査点数

品目		検査点数	備考
米	早期出荷米	2,275	この他に、全量全袋検査で約100万袋を検査
	一般米	121	
穀類	小麦	5	
	大麦	1	
	大豆	57	
	小豆	6	
	そば	396	夏そば及び秋そば
	アワ	2	
	クリ	14	分類上、穀類に入ります
野菜	196	露地及び施設栽培	
果実	122		
乾燥果実	7	あんぼ・干し柿	
飼料作物	60	牧草等	
合計		3,262	

2 平成25年度の放射性物質吸収抑制対策について

風評被害を克服するためにも、全ての農畜産物から放射性セシウムが検出されないことを目指し、吸収抑制対策に万全を期しましょう。

●作物共通の対策

高レベルの放射性物質をほ場に持ち込まない！

- ・堆肥や土壌改良資材・培土は、放射性セシウム濃度が、暫定許容値(400ベクレル/kg)以下のものを使用しましょう。

土壌中の放射性物質濃度を薄める！

- ・ほ場を耕耘する際は、出来るだけ深く耕して、土壌中の放射性物質の濃度を薄めましょう。

放射性物質を作物に吸わせない！

- ・カリ肥料を適正に施用して、放射性セシウムの吸収を抑えましょう。
- ・土壌pHを6~6.5に調整しましょう。

●作物ごとの対策のポイント

水 稲

カリ成分合計で10 a 当たり10kg以上の基肥施肥を必ず行ってください。また、地力に応じた基肥量や生育量に応じた追肥量とするなど、倒伏しない稲体づくりに努めましょう。

そば、大豆等の穀類

通常の基肥施用量にカリ成分で10 a 当たり2 kg以上乗せ施用してください。収穫は適期に行い、倒伏による汚粒の発生を防ぎましょう。また、晴天時に収穫しましょう。

野 菜

カリ施肥は作物ごとの施肥基準に従います。酸性土壌では石灰苦土等の施用により適正pHに調整しましょう。できる限り、事前に土壌診断をお受け下さい。

植え付けにはマルチを利用し、通路へ敷わらを行うなどして、土ほこりが立つことを防ぎましょう。収穫物には、土を付着させないように取扱いに注意しましょう。

果 樹

各樹種ともに、できるだけ太枝等の粗皮を削りましょう。また、高圧洗浄機を保有している方は、展葉前に樹皮の高圧洗浄を行いましょう。太枝・中枝が密生している場合は、せん定で適正に間引きましょう。

牧 草 等

牧草、飼料作物および飼料用に供する稲わらは、収穫時期にモニタリング調査を実施し、利用の可否について判断することになっています。なお、収穫の際には土壌が混入しないよう極力高刈りに努めましょう。

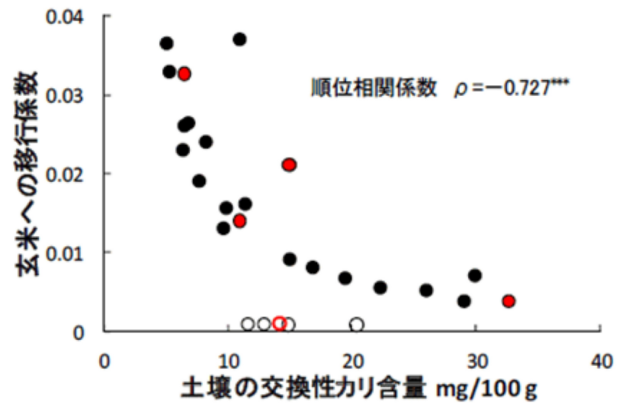


図 水田土壌の交換性カリ含量と放射性セシウムの玄米への移行係数の関係
※土壌中の交換性カリ含量25mg/100g以上とすることが推奨されています。

会津坂下農業普及推進懇談会を開催しました



平成25年2月19日(火)に、河沼郡柳津町清流のやど「かわち」において、指導農業士、普及協力委員及び各町村担当課長等の構成員にお集まりいただき、「平成24年度会津坂下農業普及推進懇談会」を開催しました。本年度の懇談会は、一昨年3月に発生した東日本大震災とその後の福島第一原子力発電所の事故により、福島県はかつて経験したことがない被害に直面しており、その被害は現在も続いていることから、①平成24年度普及指導計画の進捗状況について(東日本大震災と福島第一原発事故への対応について)、②平成25年度普及指導計画(案)について、③平成25年度営農対策(案)について、の内容で会議を開催いたしました。

また、福島米の新品種「天のつぶ」の試食も併せて行い、その食味を味わって貰いました。構成員の方々からは、充実している放射能検査の積極的なアピールや更なる風評被害対策の重要性等のご意見をいただきました。今後の普及事業の推進に取り入れていきたいと考えています。

懇談会終了後は、会津坂下指導農業士会と両沼農村青年クラブ主催による「両沼地方農業担い手関係者情報交換会」が開催されました。世代を超えた農業担い手の関係者が多数一堂に会し、風評被害に一丸となって対処する意識を共有することができたことは、非常に有意義であり、今後とも連携して活動することを確認しました。

昭和村のカスミソウが 国際園芸博覧会「フロリアード」で受賞!!



優秀品種賞を受賞した
「ベールスター」

「フロリアード」は10年に一度開催される国際園芸博覧会です。1960年以降、オランダのアムステルダム、ロッテルダム、デン・ハーグ、ゾートメアで開催され、2012年はフェンローで開催されました。

フロリアードは世界の花き産業の発展を目指す重要な催しで、春・夏・秋の3回、花の品種コンテストが実施されます。今回、日本からは436品種が出展され、昭和村花き振興協議会も秋の切り花コンテストにカスミソウ3品種を出展しました。

今回のコンテストは、まだ気温が高い9月中旬であること、海外への輸送で審査まで期間があること、などから花の品質保持が心配されました。しかしながら、出展した品種「ベールスター」は10点満点中9.27点の高得点を獲得し、総数56点中5位で優秀品種賞を受賞しました。他の2品種「ス



目揃い会の様子

ノーベール」、「フォレスト」も9点以上の高得点を得て、同じく優秀品種賞を受賞しました。

今回の受賞は、他産地に先駆けて花の鮮度保持対策に取り組んできた当産地の努力が評価されたものと思っています。

夏秋期日本一の出荷量である昭和村のカスミソウ栽培は、平成25年度で30周年を迎えます。今回の受賞を誇りに、今後も引き続き高い品質を追求し、50年、100年と続く産地を目指していきます。



カスミソウ生産者（矢ノ原ほ場にて）

昭和村でじゅうねん（エゴマ）に関する 講演会が開催されました

じゅうねんに多く含まれる「 α -リノレン酸」は、花粉症やアトピーなどのアレルギー、ガンや動脈硬化への効果が注目され、近年、健康食品としてじゅうねん油の需要が高まっています。

昭和村でも今年度、耕作放棄地対策としてじゅうねん栽培に取り組んでおり、その活動の一環として今回の講演会が開催されました。

講演会では、今年度取り組んだ「じゅうねん栽培の機械化実証（セル苗移植、コンバイン収穫）」について金山普及所から経過報告を行った後、お茶の水女子大学大学院の小林哲幸教授から「じゅうねんは畑の魚ー健康にどう役立つか」、続いて、株式会社GNSの廣田哲也氏から、「県内加工商品の現在の取組状況と今後の展望について」、という演題でそれぞれご講演をいただきました。

講演会には昭和村内だけでなく、近隣の町からも参加者があり、じゅうねん油の優れた機能性について再確認していたようでした。

